

二〇一四年 十二月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

ひとつの言葉でけんかして ひとつの言葉で仲なおひ
ひとつの言葉はそれぞれに ひとつの「心」をもつて

吉野弘

言葉は、人を助けることや励ます一方で人を傷つけ悲しませることもあります。普段の学校生活では、クラスやクラブ活動などで多くの言葉が交わされ、そこで嬉しい気持ちになったり、不愉快な気持ちになったり、様々な事を感じながらみなさんも過ごしていると思います。

時には友達との間でけんかをする時もあると思います。けんかをしているときは相手に腹を立て、絶対に許したくない気持ちになりますが、「ごめん」の一言で分かり合えることはあります。「の詩で述べられているように、言葉には「ころ」があるとします。だからこそ言葉を通して伝わるものがあるのです。逆に上辺だけ飾ったような言葉では相手にはきつと届かないと思います。

言葉はもちろん大切です、その言葉を発している自分自身の「ころ」もしっかりと見つめていくことを教えられますね。

今月の聖語

善き人々は 遠くにいても輝く 雪を頂く高山のように

『ダンマパダ』

『ダンマパダ』とは、釈尊の教えを集めたもので、人間そのものへの深い反省や生活の指針を短い句によつて示したものです。

釈尊が述べられるように、善き人は遠くにいても輝いているように思います。ここでいう「善き人」とは仏教的な意味で、「真理に達した人」を指します。

この言葉を広く日常生活に置き換えて考えてみると、例えば「何事も一生懸命に取り組む人」、「友達、クラスの仲間を大切にする人」、「部活動の競技、種目において凄い技術を持っている人」などが「善き人」に当てはまるのではないのでしょうか。そして、これらの「善き人」は自分自身にとって、仮に学校やクラスやクラブは違ったとしても、キラキラと輝いて見えるのではないのでしょうか。

人から良い刺激を受けて、一歩でも自分自身が思う「善き人」に近づいていくために日々精進していくことを改め教えられる言葉だと感じます。